

11 課

6月13日

聖書と預言



安息日午後 6月6日

今週のテーマ

暗唱聖句

彼は言った、「二千三百の夕と朝の間である。そして聖所は清められてその正しい状態に復する」。(ダニエル 8 : 14、口語訳)

彼は続けた。「日が暮れ、夜の明けること二千三百回に及んで、聖所はあるべき状態に戻る。」(ダニエル 8 : 14、新共同訳)

今週の聖句

ダニエル 2 : 27 ~ 45、ヨハネ 14 : 29、民数記 14 : 34、ダニエル 7 : 1 ~ 25、8 : 14、
1コリント 10 : 1 ~ 13

聖書の預言は、私たちのアイデンティティー（自己認識）や使命にとって極めて重要です。預言は、神の言葉の正確さを裏づけるための内的、外的仕組みを持っています。「事が起こったときに、あなたがたが信じるようにと、今、その事の起こる前に話しておく」(ヨハ 14 : 29、さらに同 13 : 19 も参照) と、イエスは言われました。重要な問題は、預言がいつ（本当に）起こったのかがわかるように、私たちがいかに正しく預言を解釈するかということです。

宗教改革の時代、改革者たちは歴史主義者の手法に倣って（なら）いました。この手法は、ダニエルやヨハネが彼ら自身の解釈の鍵として用いたのと同じ手法です。歴史主義者の手法は預言を歴史の漸進的かつ継続的な成就とみなしますが、その歴史は過去に始まり、神の永遠の王国で終わります。

私たちは今週、歴史主義者の預言解釈の重要な点を研究します。「わたしたちは歴史の中に預言の成就を見、偉大な改革運動の中に神の摂理を学び、最後の争闘に入ろうとしている国々の間に起こる事件の経過を、理解すべきである」(『ミニストリー・オブ・ヒーリング 新装版』291 ページ)。

セブンスデー・アドベンチストが預言の研究に用いる基本的手法は、歴史主義と呼ばれています。それは、聖書の主要な預言の多くが、歴史の切れ目ない直線的流れを過去から現在、現在から未来へたどっているという考えです。私たちがこの手法で研究を行うのは、聖書そのものがこの手法によってこれらの預言を解釈しているからです。

問1 ダニエル 2：27～45 を読んでください。この夢のどういう側面が、歴史を通じて諸勢力が継続的に途切れずに続くことを示していますか。聖書そのものは、終末論的預言の解釈の仕方について、どのようなことを私たちに教えていますか。

ネブカドネツアルの王国が純金の頭として理解されていることに注目してください。従って、ダニエルはバビロンを最初の王国とみなしています（ダニ 2：38）。そして、ダニエルは言います——「あなたのあとに他の国が興りますが、これはあなたに劣るもの。その次に興る第三の国は青銅で」（ダニ 2：39）、次に「第四の国」（同 2：40）が興ります、と。これらの国々が間隔なく、次々に連続していることは、像そのものにも示唆されています。なぜなら、一つひとつの王国は、頭からつま先へと続く、大きな体の各部分で表現されているからです。それらは、時間と歴史がつながっているのと同じようにつながっています。

ダニエル 7 章と 8 章では、像の代わりに、特定の獣の象徴が用いられていますが、教えられていることは同じです。ここでも地上の四つの王国が（三つは 8 章で）途切れずに連続しています。それらは大昔に始まり、歴史を通過して現在へ、さらには未来へつながっています。その未来とは、キリストが再臨なさり、神が永遠の王国を樹立される時です。

このように、ダニエル 2 章の像と、ダニエル 7 章と 8 章の連続的幻は、プロテスタントの歴史主義者の預言解釈の基礎となっており、セブンスデー・アドベンチストは今もなおその解釈方法を支持しています。

問2 ヨハネ 14：29 を読んでください。イエスは、私たちが預言の機能の仕方を理解するのに役立つ、どのようなことを言われましたか。

現代の私たちは、多くの歴史がすでに繰り広げられた時代に生きており、バビロンの時代に生きていた人たちが持ちえなかった大きな強みを持っています。それはどのような強みですか。

歴史主義の解釈の鍵の一つは、「1日=1年の原則」です。多くの学者がこの原則をダニエル書や黙示録の時間に関する預言に適用してきました。彼らはこの原則をいくつかの鍵となる聖句や、預言そのものの直近の文脈から導き出しました。

問3 民数記 14:34、エゼキエル 4:6 を読んでください。これらの聖句の中で、神は「1日=1年の原則」をいかにはっきりと説明しておられますか。

これらの聖句の中に、「1日=1年の原則」の考えをはっきり見ることができます。しかし私たちは、時間に関するいくつかの預言（例えば、ダニ 7:25、8:14、黙 11:2、3、12:6、14、13:5）にこの原則を用いることの正当性を、いかに説明したらよいのでしょうか。

ダニエル書や黙示録のこれらの預言に「1日=1年の原則」を用いることは、三つの要素（象徴の使用、長い期間、特別な表現）によって支持されます。

第一に、国をあらわす獣や角の象徴的な性質は、時間の表現も象徴的に理解されるべきであることを示唆しています。従って、預言のほかの部分の文字どおりでなく象徴的なのですから、私たちは、時間の預言だけ文字どおりに受け取るべきでしょうか。言うまでもなく、その答えは、そうすべきではない、ということです。

第二に、預言の中に描かれている出来事や国々の多くは、何世紀もの長期間にわたっていますが、そのようなことは、もしそれらを描いている時間の預言を文字どおりに理解するなら不可能です。しかし、ひとたび「1日=1年の原則」が適用されると、時間がその出来事に極めて正確に当てはまります。

第三に、これらの期間を示すために用いられている特別な表現は、象徴的解釈を示唆しています。言い換えれば、これらの預言の中で時間を表現する方法（例えば、ダニ 8:14 の「日が暮れ、夜の明けること二千三百回」）は、通常の時間の表現方法ではなく、そのことは、描かれている期間を文字どおりに理解するのではなく、象徴的に理解すべきであることを示しているのです。

ダニエル 9:24~27 の 70 週の預言を見てください。「エルサレム復興と再建についての御言葉が出されてから／油注がれた君の到来まで／七週あり、また、六十二週あって」（ダニ 9:25）と書かれており、文字どおりだと 69 週、1 年 4 か月と 1 週間になります。そのように理解すると、この預言は意味をなしません。しかし、聖書の「1日=1年の原則」を適用し、70 週が 490 年になるとき、どうなりますか。

何世紀にもわたって、プロテスタントの改革者たちは、ダニエル7章と8章の小さな角の勢力をローマ教会とみなしてきました。なぜでしょうか。

問4 ダニエル7：1～25、8：1～13を読んでください。両方の章における小さな角に共通する特徴は何ですか。私たちはどのようにしてその正体を明らかにすることができますか。

ダニエル7章と8章の小さな角には、共通する特徴が七つあります。①いずれも角と呼ばれている。②いずれも迫害する勢力である（7：21、25、8：10、24）。③いずれも高慢で冒瀆^{ぼうとく}的である（7：8、20、25、8：10、11、25）。④いずれも神の民を標的にする（7：25、8：24）。⑤いずれもその活動が預言的時間によって説明されているという側面がある（7：25、8：13、14）。⑥いずれも時の終わりまで存在する（7：25、26、8：17、19）。⑦いずれも超自然的な形で滅ぼされることになっている（7：11、26、8：25）。

ダニエル7章の小さな角は、第四の獣から生じますが、この第四の獣の一部であり続けます。

ローマから出てきて、少なくとも1260年間、その政治的宗教的影響を与え続けた勢力は何でしょうか（ダニ7：25参照）。一つの勢力だけが歴史と預言に適合します——教皇制です。教皇制は、ヨーロッパの10部族の中で権力を握り、3部族が倒されました（同7：24）。教皇制は「十人の王と異なり」（同）、ほかの部族と比べて独自性がありました。教皇制は「いと高き方に敵対して語り」（同7：25）、イエスの役割を奪い、それを教皇に置き換えることによって「みずから高ぶって、その衆群の主に敵し」（同8：11）しました。教皇制は、「いと高き方の聖者ら」（同7：25）を迫害し、プロテスタントを虐殺した反宗教改革の間に「万軍、つまり星のうちの幾つかを地に投げ落とし……た」（同8：10）という預言を成就しました。教皇制は、第二の掟を取り除き、安息日を日曜日に変えることによって「時と法を変えようと」（同7：25）しました。

ダニエル2、7、8章において、ギリシアのあとに一つの勢力が興り、時の終わりまで存在し続けます。現在、教皇制の段階にあるローマ以外に、どんな勢力がそれでありうるでしょうか。どれほど差別的であろうと、このことはなぜ三天使の使命の重要な教えの一つであり、それゆえに現代の真理の重要な構成要素なのか。

今週研究した預言の概略は、宗教改革以来、プロテスタントの歴史主義者たちの間で支持を得てきました。しかし、2300日と調査審判が注意深く再考され、研究されたのは、1800年代初めの再臨待望運動からでした。次の表を見てください。

| ダニエル7章 | ダニエル8章 |
|--------------|------------------|
| バビロン(獅子) | — |
| メディアとペルシア(熊) | メディアとペルシア(雄羊) |
| ギリシア(豹) | ギリシア(雄山羊) |
| 異教ローマ(第四の獣) | 異教ローマ(水平方向に動く角) |
| 教皇制ローマ(小さな角) | 教皇制ローマ(垂直方向に動く角) |

問5 ダニエル7:9~14、8:14、26を読んでください。これらの聖句に描かれているように、天ではどのようなことが起こっていますか。

中世の迫害期間は、ベルティエ將軍による教皇の逮捕、投獄によって1798年に終わりました(黙13:3)、その後、ダニエル7章と8章は裁きについて語ります。「裁き主(が)席に着き」(ダニ7:10)、『人の子』のような者が天の雲に乗り／『日の老いたる者』の前に来」(同7:13)る。これは、1798年のあとイエスの再臨の前に天で行われる裁きの場面です。

ダニエル7章のこの裁きの場面は、ダニエル8:14の聖所の清めと同じことを語っています。ダニエル8:14によれば、この清めの時は「日が暮れ、夜の明けること二千三百回に及んで」、つまり2300日後のことであり、「1日=1年の原則」を用いれば、2300年後をあらわしています。

2300年の起点はダニエル9:24に見いだされます。そこでは、70週(490年)の預言が2300日の幻(ダニ9:24)から「ハタク」(「切り取られる」という意味のヘブライ語、日本語訳では「定められている」)されているのです。実際、多くの学者が、ダニエル8:14の2300日(年)の預言と、ダニエル9:24~27の70週(490年)の預言を一つの預言の二つの部分であると正しく理解しています。70週の預言の次の聖句であるダニエル9:25は、この期間の始まりが「エルサレム復興と再建についての／御言葉が出されてから」であると教えています。この出来事があったのは、「アルタクセルクセス王の第七年」(エズ7:7)、つまり紀元前457年です。そこから時を2300年進めると1844年になります。それは1798年からさほど経っておらず、イエスの再臨の前です。その時、イエスは至聖所に入り、執り成しの働き、つまり天の聖所の清めを始められました。金曜日の研究の表を参照してください。

ダニエル書や黙示録の中で見られるような終末論的預言の象徴の成就是一度だけです。例えば、雄山羊はギリシアというただ一つの王国として成就しました（ダニ8：21）。何しろ、聖句が単刀直入にその名前を挙げているのです。これ以上に明確なことがあるでしょうか。

しかし予型論は、旧約聖書の中の実際の人物、出来事、制度などで、歴史的事実の中に見られるものでありながら、未来のもっと大いなる事実を指し示すものに注目します。解釈の方法として予型論を使うことは、イエスや新約聖書の記者たちにさかのぼり、旧約聖書それ自身の中にさえ見いだされます。予型と対型（原型・本体）を識別する唯一の手掛かりは、靈感を受けた聖書記者がそれらを特定するときです。

問6 Ⅰコリント10：1～13を読んでください。パウロはコリント教会に勧告する際に、どのような歴史上の出来事に言及していますか。このことは、今日の私たちとどのような関係がありますか。

パウロは歴史的事実である出エジプトに言及し、古代ヘブライ人が荒野で体験したことに基づいて予型論を展開しています。このようにしてパウロは、（これらのことをモーセに記録させた）神が「これらの出来事（が）、わたしたちを戒める前例として起こ（る）」（Ⅰコリ10：6）ように警告されたということを示し、それによって試練に耐えるよう終末時代の霊的イスラエルに勧告しています。

問7 以下の聖句を読み、イエスや新約聖書の記者たちが説明しているように、それぞれの予型と対型の成就を書き記してください。マタイ12：40、ヨハネ19：36、3：14、15、ローマ5：14、ヨハネ1：29

いずれの場合にも、イエスと新約聖書の記者たちは予型と対型の解釈を適用し、預言の重要性を際立たせています。このようにして彼らは、より大きな歴史的事実の成就を指摘しているのです。

地上の聖所の働きについて考えてください。それは、救済計画全体の予型の役割を果たしていました。このことは、今日の私たちにとって聖所のメッセージが重要であることについて、何を教えていますか。

次の表を研究してください。

| ダニエル7章 | ダニエル8章 |
|--------------|------------------|
| バビロン(獅子) | — |
| メディアとペルシア(熊) | メディアとペルシア(雄羊) |
| ギリシア(豹) | ギリシア(雄山羊) |
| 異教ローマ(第四の獣) | 異教ローマ(水平方向に動く角) |
| 教皇制ローマ(小さな角) | 教皇制ローマ(垂直方向に動く角) |
| 天での裁き | 天の聖所の清め |

ダニエル7章の裁きの場面は1260年間の迫害(ダニ7:25)のあとに登場しており、ダニエル8:14の聖所の清めと同じものです。また、天におけるこの裁きの場面は、墮落したこの地球の悲しい歴史の終わりに神の永遠の王国が樹立されることに(最終的に)つながります。このように、聖書がダニエル8:14とそれが示す出来事を非常に重視しているという確かな聖書的証拠があるので

す。

話し合いのための質問

- ① ダニエル2章に戻って復習してください。歴史主義者の方法がここでいかにはっきり明らかにされているかを確認してください。大昔に始まり、神の永遠の王国の樹立で終わるまで、世界帝国が途切れずに連続しています。神はこれらの預言を解釈する鍵を私たちに与えておられます。しかし、今日、歴史主義者の方法を用いるクリスチャンがもはやほとんどいないキリスト教世界の現状について、どこに書かれているのでしょうか。この事実は、アドベンチストのメッセージが現在の世界にとって一層適切なものであることを証明するのに、なぜ役に立つのですか。
- ② あなたはダニエル8:14の2300日の預言を、どれくらい理解していますか。もし理解していないなら、時間を取ってそれを学び、安息日のクラスで発表しませんか。この預言に対する私たちの解釈がどれほどしっかりした根拠に基づいているかに、あなたは驚くかもしれません。
- ③ ダニエル7:18、21、22、25、27を読んでください。焦点が聖者らに起こることに合わせられています。そのことに注目してください。小さな角の勢力は、彼らにどのようなことをしますか。それとは対照的に、主は彼らのためにどのようなことをなさいますか。裁きに関して、聖者らにとって良い知らせは何ですか。裁きは最終的に何を彼らにもたらしますか。